

丸和ソーシャルビジネス賞受賞者からのメッセージ

渡邊 玲央さん(2021年度受賞、株式会社 FireTech 代表取締役／受賞時40歳)

2021年度丸和ソーシャルビジネス賞に応募したのは、丸和育英会の理念、特に、「《志》には、個人の願望を超え多くの人の夢や願望をも叶えてやろうとの気概、すなわち未来への強く厳しい挑戦意志が存在している。」という理念に共感したからです。

応募した事業「防点丸」は、今まで煩雑だった消防点検報告書作成業務を、スマホ、タブレットから簡便に作成、内容を関係者内で共有できるクラウドサービスです。消防職員14年の経験、ソフトウェア開発の経験を生かして開発を進めています。

受賞に至るまで、メンターの方からのメンタリングで「small win」を積み重ねることの重要性を教えていただいたことは、今も心の支えになっています。

また、いただいた賞金のおかげで、システム開発を進めることができ、大変ありがたかったです。

中田一葉さん(2020年度受賞、COLLATE 代表／受賞時35歳)

私は2回目の挑戦で、受賞させていただきました。1回目・2回目共にメンターをつけて頂いたことで、事業プランがかなり整理されました。独立して間もない私にとって、相談や壁打ちができる存在が非常に心強かったです。また先輩経営者でもある審査員からの厳しいコメントで、自分の甘さや実行に足りていないことに気づくことができ、今でも自分を奮い立たせる原動力になっています。現在は、支援金を活用させていただき、法人成りも実現しました。関わっていただいた皆様に、この場をお借りして御礼申し上げます。

自分の事業プランやプロジェクトになかなか自信が持てない方にとって、応募のハードルが高いと感じるかもしれません。ですが、事業の整理や説明練習の場として、ぜひ一度挑戦してみてください。応募する中で、前に進んでいる実感が持てると思います。私もまだまだ道半ばですので、一緒に志をもって実現していきましょう！

青山美恵子さん(2015年度受賞、株式会社 Pont D'or 代表／受賞時32歳)

2015年に貴財団で受賞させていただきました。その当時はスタートアップで起業したばかりでもあったため、今以上に手探り状態の中で事業を進めて行っている中で応募させていただきました。社会性があるのか、成長性があるのかなど様々なことを模索しながら事業計画書を書き上げたことが思い出されます。受賞してありがたかったのは賞金を頂けたことももちろんありますが、様々な角度からご指摘、ご意見頂ける機会になったことで事業に対して客観視できるようになったことです。また横の繋がりもでき受賞者同士で集まったり、現状を報告しあったり、相談し合える経営者仲間ができたことも大きな財産となっています。

小泉満さん(2019 年度受賞、OPENPOST 代表／受賞時 50 歳)

ブロックチェーン技術を活用したコンテンツ共創プラットフォーム事業に取り組んでいます。社会人大学院の MBA を修了する際自身の起業プランを実践知論文として執筆しました。わたしが音楽家だった時に体験した自身で創作した作品が自身で管理することができない忸怩たる想いが起業の原動力になっています。受賞当時は創業 1 年目で売上も立たない実証実験に向けて基盤となるシステムを開発していた時期だったので丸和育志会から支援給付金をいただき大変助かりました。また大学院での恩師本荘先生がメンターをされていたので大学院在学中から終始一貫ご指導をいただくことができました。最近では起業経験のある実務家教員として大学院でスタートアップ関連科目を教えています。これまで自身の起業を支えていただいた方々へのお礼として微力ながら起業家の育成にも取り組んでいきたいと考えています。

清水美雪さん(2020・2015年度受賞、メディカルラボパートナーズ代表／受賞時 42 歳)

私は起業して間もない頃に、丸和育志会の優秀プロジェクトを知り、応募しました。まだ実績が全くない頃でしたが、審査に向けてメンターの方と事業についてディスカッションさせていただく中で、事業の方向性やアクションプランを作成できたため、ビジネスプランをブラッシュアップすることができました。結果的に、優秀プロジェクト賞をいただけたので、思い切って全国に営業に出ることができました。そのお蔭で、今では日本全国に顧客を作ることができ、日々、忙しく活動できるようになった為、とても感謝しております。また、その時のメンターの方には、現在も事業に困った時に相談に乗っていただいております。私にとっては安心して相談できる良き相談者となっています。

起業して思い切って事業を前に進めたい方は、ぜひ、応募してみてください。

吉田 公衛さん(2021年度受賞、HDL 合同会社 CEO／受賞時 35 歳)

私は「ドローン製品を利用した SE 育成事業」というプロジェクトで、丸和ソーシャルビジネス賞を受賞しました。新しく応募される方はもしかしたら「漠然とした不安を抱えている」かもしれません。しかし、そのような状態でもサポート体制がしっかりとしており、ビジネスモデル構築のみならず分からない点は経験豊富な専属のメンターが丁寧に教えてくださるので、安心して取り組める環境です。最終的には自分自身が生み出したビジネスモデルを我が子のように愛着が感じることが出来ます。新しい環境で挑戦し、それが自らの成長に確実につながっていく。丸和育志会であなたのやりたいことをどんどん提案してみませんか。

飯淵弘成さん(2021年度受賞、GO プランニング／受賞時 35 歳)

私は、過去に個人事業主・GO プランニングの代表として、第 7 回「丸和ソーシャルビジネ

ス賞」を目指しました。その理由は、2つありました。一つは、ビジネスモデルの有意性を認めて頂くことにより、‘信用’を得たかったことです。もう一つは、法人化へのきっかけを得ることでした。個人事業主としてそれなりにビジネスを続けていましたが、社会課題の解決へ影響力を持つために、法人化をしたいと考えていました。受賞させていただいたことにより、自らのビジネスモデルをさらに育てるべきであると決意。法人化への大きな後押しとなりました。新しくチャレンジされる皆さまのビジネスモデルや、そこに込められた志に触れられることを楽しみにしております。

後藤学さん(2019年度受賞、株式会社 Helte／受賞時28歳)

丸和ソーシャルビジネス賞をいただいた際はビジネスとしても様々な変革期でビジネスモデルの変更や資金調達に取り組んでいました。その中で応募をさせていただき、選考過程で審査員の皆さまへビジネスを説明することで新たな視点や学びも多くあり、とても充実したプロセスを経て賞をいただくことができました。

これから申込を行う皆様も様々な状況下で色々なものを背負って、あの手この手で検証や試行錯誤を繰り返しながら事業を進めているのではないかと思います。選考プロセスでの気付きも多くあるはずなので、現状の事業概要を経験豊富な審査員の皆さんへ発表し、賞を目指すことはもちろん現在の事業に改めて向き合い、事業をさらにシャープにし、学びの多い機会となればと願っております。

ぜひ、賞を目指して頑張ってください。

渡邊峻さん(2014年度受賞、(株)日本学術総合研究所代表／受賞時27歳)

応募を検討している方がいましたら、是非、チャレンジしてみてください。特に、この賞は公益財団法人が主催している賞のため、信頼感があります。また、民間のビジネスコンテストの場合は様々な規約や束縛がありますが、この財団ではありません。当時、私のメンターとなって頂いた先生には、今もお世話になってます。また、ビジネスの初期段階では、様々な悩みに直面すると思いますが、先輩の起業家からのアドバイスも貰えます。もし、何かチャレンジしてみたいけど悩んでる方がいましたら勇気を出して応募してみてください。

重光喬之さん(2018年度受賞、任意団体 feese／受賞時38歳)

私は 20 代半ばで難病になり、医療や社会制度の狭間を実感してきました。退職後、同病者向けの情報共有サイトを運営し、病名に関係なく難病のある方の社会参加の機会を増やせないかと思い、応募しました。丸和育志会様からの支援金を元手に“難病者の社会参加を考える研究会”を立ち上げ、難病者の就労に関する調査、就労事例作り、政策提言などを行い、3 年間の活動を難病者の社会参加白書にまとめました。全都道府県・市区町村に白書を送り、3 つの提言と新たな調査も実施しました。難病に限らず一つのことに集中して取り組んでいると、他のことが見えなくなり、自分たちの常識は世間の非常識となりま

す。丸和育志会に所属する多様な方々との交流は、俯瞰したり客観視する機会になります。何かチャレンジしたいという熱い思いがある方は奮って応募されてはいかがでしょうか。

中島かおりさん(2018年度受賞、にんしん SOS 東京代表理事／受賞時46歳)

応募当時、「10代向けの性教育」をテーマに応募いたしました。プロジェクト実施計画の策定の中で、「事業を創り出す」という視点やどう継続し発展させていくのかについて、多くのご助言をいただきゼロから練り直し、「にんしん SOS 相談員育成研修プロジェクト」が出来ました。丸和育志会の皆さんとの MTG を繰り返す中で、挑戦したい社会課題にどう取り組むかだけでなく、ソーシャル「ビジネス」という視点を加えて考えることが、事業拡大を考える上でとても重要であることに気づかされました。本プロジェクトは現在も団体の中で一つの事業として収益をあげ続けており、企業や団体向けの研修パッケージの開発なども始まっています。今後も、チャレンジし続けていきたいと思えます。

秋山和宏さん(2016年度受賞、東葛クリニック病院 副院長/みんながみんな健康になる 代表理事／受賞時52歳)

「チーム医療関連の草の根勉強会支援事業」の計画書作成中、橋本理事長から「この事業に関して、毎日、コツコツと積み上げていくタスクを決めなさい」と言われたことが印象に残っています。現在、当時の医療者向けのビジネスを一般市民、特にシニアの健康リテラシーを向上させるものに拡張させています。その際、毎日の隙間時間に教育動画を製作し、メディカルウォーキング(医歩)の e ラーニング教材を完成させることが出来ました。先のアドバイスを自分なりに実行してきたからだと思っています。私にとってのビジネスの勘所、叡智となりました。応募を考えている皆さん、まずはチャレンジしてみましょう！事業の骨肉となる叡智が授けられるはずです。

矢澤修さん(2020年度受賞、株式会社イースマイリー代表取締役／受賞時37歳)

丸和育志会のソーシャルビジネス賞は、過去受賞者の友人からの紹介で応募をいたしました。実は1度目は落選し、2度目の挑戦で受賞できたという経緯があります。応募当時、まさにこれから始めようとしていた新しいプロジェクト構想があり、もし受賞ができれば支援給付金の100万円を活用してスタートダッシュできれば…という思いでした。1次審査通過後にメンターをつけていただき、ビジネスアイデアを何度もブラッシュアップする機会をいただきました。そのメンターは今でもとても応援をしてくれています。受賞の有無に関わらず取り組みを見つめ直す機会にもなるので、挑戦したいことがあるなら是非応募してください！

葛生善江さん(2014年度受賞、株式会社村越不動産 専務取締役)

自社の不動産を利用した短期滞在も長期滞在も楽しめるメニューにボランティアの機会等

も加えレイオハナという滞在の仕組みをつくりました。現在もそうした活動のほか、新たに空き家問題の解決と活用、まちづくりの活動も始めました。

今年度は空き家対策で、『未来の東京』戦略 東京都民間空き家対策東京モデル支援事業に採択されました。丸和育志会の橋本先生、日比野先生をはじめ多くの皆様にご支援をいただき、思い切って踏み出した1歩が、その後の新たな活動に繋がっています。また応募にあたりさまざまなアドバイスをいただけたこと、仲間が増えたことがとても役立ち現在の活動に活かせており感謝しております。皆様もぜひ新たな一歩を。

清川英恵さん(2021年度受賞、etomoji 代表/受賞時37歳)

新しいビジネスを創出する志をお持ちの方へ。僥越ながら言葉を贈ります。ビジネスを進めるにあたり苦悩は後を経ちませんが、行動は自分を裏切りません。たった1人で始めたことも、行動すればいずれ必ず仲間ができます。先々で失敗をしても、必ず糧になります。失敗は、あなたを強くします。自分より若い人がすごい勢いで進んでいくのを見て、自信を無くすかもしれません。でも、あなたが考えるそれは、ずっと遠くの未来を見据えたものなはず。この長距離走を楽しみながら、走り抜けてほしいと願います。あなたの心の中で燦る情熱が、未来を大きく左右します。自分の気持ちを原動力に、人のために思い、企画を実行に移してください。がんばって！

柳生好彦さん(2021年度受賞、小豆島ヘルシーランド株式会社 共同創業者/相談役/受賞時69歳)

私は昨年応募させて頂き、お蔭様でこのような素晴らしい賞と賞金を頂戴し心から感激いたしました。この賞を授かりましたことに、大変誇りを感じております。

最終申請まで、何度も何度も橋本忠夫理事長自らのご指導を受け、修正、修正又修正していく度に事業計画が更に明確になり、計画がはっきりと現実のものとなっていきました。そして、必ずこの計画以上の結果を追求し実践しなければならない、と身も心も引き締まってまいりました。また、当計画の協力者の方々が受賞を大変喜んでくださっており、受賞したことで更に協力者も増えております。私はこの計画を進化させ、いよいよ本年 10 月 19 日に新会社を 70 歳にして立ち上げ、人生の本番に向って前進します。ぜひ皆様も大きな可能性にチャレンジしてください。

齋藤早紀子さん(2021年度受賞、株式会社 FESTEEM 代表取締役/受賞時41歳)

賞に参加することで、ご自身のビジネスプランがブラッシュアップされるだけでなく、幅広いバックグラウンドを持つ起業家同士のつながりの機会にもなりますのでぜひご参加ください。趣旨にある「利を生まない法人は存続できず、社会に貢献しない法人には存在価値がない。」という難しいバランスには、考え抜く姿勢を続けられる強い熱意が必要であり、それを学ばせて頂けたと感じております。また“自分で考え、仲間を作り、実践す

る”の育成の場でもあります。事業活動を進めていくうえで、メンターの方や同時受賞者の方など、たくさんの人に支えられ、人との繋がりを実感しています。新たな交流の場をより広げられたらと思います。

安部博文さん(2019年度受賞、特定非営利活動法人uecサポート 理事長／受賞時66歳)

1. どんなことを考えて応募したか

事業の失敗リスクをできるだけ小さくしたいと考えていました(今もです)。自分たちで発見できないリスクを見つけるにはコンサルティングを受けるのが良い。そこでソーシャルビジネス賞に応募しました。

2. 受賞してどんなことが良かったか

(1)受賞以来、事業は成長し続けています(これが最大の効果)。

(2)事業で何をやろうとしているのか、シンプルに伝える重要性が分かったこと(しかし、実行はまだまだ)。

(3)事業計画書ができたこと(PDCAのCとAに役立つ)。

(4)丸和育志会からコンサルティングを受けたこと(戦略の曖昧さに指摘がありました)。

千葉佳祐さん(2019年度受賞、九州大学 理学府 化学専攻／受賞時24歳)

もし、これを見ながら、応募に悩んでいるのであれば、ぜひ応募してほしいです。僕は、応募してよかったです。振り返ると、当時の自分は、まだ学生で事業といえるほどの状況はありませんでした。プロトタイプ作りのために資金が必要でした。もしここで採択されればプロトタイプを作り、サービスを世に送り出せるのではないかと考えて応募しました。結果、アイデアしかない未熟な僕を信じて採択していただき、今では事業をお客様へ届けることができています。本当にありがとうございます。ぜひ勇気を持って応募して、アドバイスをもらいながら前に進んでほしいなと思います。

後藤誠さん(2018年度受賞、株式会社ゲーム・フォー・イット 代表取締役社長／受賞時48歳)

私が会社を立ち上げて1年目は、初めての会社運営、初めての事業計画とプロジェクトとの立ち上げなど、不安の中の日々でした。そんな中、丸和ソーシャルビジネス賞に応募を通して、多くのアドバイスと共に

- ・今後会社がどうあるべきか？
 - ・どのような指針を持って判断をしていくべきか？
 - ・会社の意義はなにか？
 - ・社会にどのようなインパクトを与えたいのか？
- など、今後訪れるであろう様々な気付きを頂きました。

これらは創業5年目を迎えた今で私を支える「基盤」になっています。これから応募を頂く皆様、この賞を通してどんな困難にも負けず自分の描いた未来を築き上げていくための「基盤」になることを願っております。頑張ってください！

三浦里江さん(2017年度受賞、早稲田大学ビジネススクール/受賞時38歳)

私は、現在、『未来の教育インフラを創る』というミッションのもと、子供向けに「社会を丸ごと教科書に」したオンライン授業を届ける「キッズウィークエンド」というサービスを運営しております。ようやく、年間15万人が利用するサービスに育ち、さらに拡大を目指して奮闘しております。起業のきっかけは、丸和ソーシャルビジネス賞受賞であり、当会の皆様は、受賞後もサービスの認知拡大やネットワークのご紹介など、事業拡大のきっかけを惜しみなく提供して下さいます。丸和ソーシャルビジネス賞にチャレンジされる皆様、ぜひ、起業のきっかけを掴むだけでなく、志熱い仲間と一緒に切磋琢磨しながら事業を育て、目指す未来を創っていきましょう！

黒岩かをるさん(2014年度受賞、株式会社薫陶塾 代表取締役/日本医療面接訓練評価センター 代表理事/受賞時67歳)

49歳の私が、子世代の医学生を応援！という篤い思いから、医学部の「模擬患者」活動を始めたのは1997年です。以来、SDGs活動の存続に悪戦苦闘する中、丸和育志会との嬉しい出逢いがありました。その《志》・理念・活動に感銘を受けて応募し、力強いサポートを得、「次世代をはぐくむ《志》で、“ありがとうが行き交う医療®”の実現」に鋭意邁進できております。今や「オンライン時代」。「オンライン医療面接訓練士®(模擬患者・家族)の“パイオニア”」として、これから益々重要になります「オンライン診療/服薬指導/保健指導」「遠くの家族・親戚と繋がるオンライン人生会議」の普及・浸透・促進のために、「オンライン医療面接訓練評価ガイド」を作成。「シミュレーショントレーニングプログラム」を確立し、広めることに貢献してまいります。応募される皆様方とも、“切磋琢磨し、ともに学び育み合う”関係構築を楽しみに応援しています。